

平成 22 年度研究報告書

研究代表者 羽根田紀幸

島根難病研究所研小児難病部門

所属 どれみクリニック小児科

氏名 羽根田紀幸

1. 研究テーマ

「モンゴル国へ渡航しての小児心疾患に対するカテーテル治療の実践・技術指導と疫学共同研究 — ハートセービングプロジェクト」

2. 研究者氏名

羽根田紀幸¹、富田英²、檜垣高史³、片岡功一⁴、内山敬達⁵、岸田憲二⁶、野木俊二⁷
田村真通⁸、山本英一³、藤井園子⁹、田原昌博¹⁰、澤田まどか¹¹、倉石建治¹²、小澤晃¹³
安田謙二¹⁴、太田宇哉¹²、渡辺一洋¹⁵、千阪俊行³、嶋侑里子⁵、丹家歩¹²、矢野宏¹⁶
山二綾子¹⁷、増川昭子¹⁸、犬山香代¹⁷、桜井裕美世¹⁹、西岡里英²⁰、宇佐美博幸²¹
丸野聡子²¹、伊藤康弘²¹、鶴岡洋子²²、岩瀬愛恵²²、加藤彩美²³、アルタントーヤ²⁴
ビャンバスレン²⁴、ナンツァツラル²⁴、ボロルマ²⁴、ウンドラル²⁴、バヤルマ²⁴
ゾーリグ²⁵、ガンバートル²⁶、アンガラグ²⁶、ソソルバラム²⁶、デルゲル²⁶
ボルドバートル²⁶、オトゴンザヤ²⁶、オユントーヤ²⁶

-
- 1 どれみクリニック小児科
 - 2 昭和大学横浜市北部病院循環器センター
 - 3 愛媛大学病院小児循環器科
 - 4 自治医大こども医療センター小児手術集中治療部
 - 5 関西医大枚方病院小児科
 - 6 医仁会武田総合病院小児科
 - 7 伊達日赤病院小児科
 - 8 秋田日赤病院小児科
 - 9 愛媛大学病院蘇生麻酔科
 - 10 あかね会土谷総合病院小児科
 - 11 昭和大学横浜市北部病院こどもセンター
 - 12 大垣市民病院小児循環器科
 - 13 宮城県立こども病院循環器科
 - 14 島根大学小児科
 - 15 富山大学小児循環器科
 - 16 カワニシ松江営業所
 - 17 昭和大学横浜市北部病院
 - 18 札幌徳洲会病院
 - 19 横浜市夜間急病センター
 - 20 愛媛大学病院
 - 21 宇佐美写真事務所
 - 22 秋田大学医学部
 - 23 北里大学医学部
 - 24 モンゴル国立母子保健センター小児循環器科
 - 25 モンゴル国立第3病院心臓血管外科
 - 26 モンゴルハートセービングプロジェクト

3. 研究概要

(目的、方法、結果)

2001年に開始し10年目(11回目)となる2010年は、2009年と同じく小人数ずつの6班(地方都市検診班3班、ウランバートル検診班1班、カテ班2班)を編成し、班別に渡航致した。

全体での成果としては、地方都市3カ所で計575名に心エコー検診、ウランバートルでのべ208名に心エコー検診、40名にカテーテル治療、8名に診断カテーテルを行った。治療カテ40名中もともと重症であった1名は残念な結果となったが、39名はほぼ完治の状態にまで回復した。

また、初めての試みとして、現地での緊急カテにて、現地ではカテでも外科手術でも治療が困難と判断した患者1例を明美ちゃん基金に紹介した。この患者は、後日来日し東京女子医大での手術にて健康を回復した。

また、モンゴル国立母子保健センターの小児循環器主任医師が日本で開催の国際小児心臓病学会に参加発表するのを支援し、無事に発表が終了した。

カテ1班でカテ治療がうまくいかなかった1例については術後管理に2名の医師が滞在を3日間延長し、懸命の誠意ある対応を行った。結果としては不幸な転帰となったが、現地医師団と緊密かつ詳細な原因分析とその後の対応を協議し、それを踏まえてカテ2班が渡航し、現地医師団や家族とはより親密な関係を保つこととなった。

以下は今年の渡航日程、人員、成果の概略である。

ホブド検診班 5/1~5/6。

ウランバートルから1200km離れた場所。

医師3名、医学生1名。205名に心エコー検査。

ウランバートル検診班 5/3~5/5。

医師2名、事務局員1名(前もって渡航)。

ウランバートルでカテ候補患者70名の心エコー検診、カテ班が治療するカテ患者のリストアップ。1名緊急カテ 来日手術目的で明美ちゃん基金に紹介。

バヤンホンゴル検診班 6/19~6/25。

ウランバートルから630km離れた場所。

医師2名、看護師2名、事務局兼カメラマン1名。192名に心エコー。

事務局兼カメラマン1名は、学会参加のナンツァツラル医師、明美ちゃん基金紹介患者、産経新聞担当者といっしょに6/30帰国。

アルハンガイ検診班 7/17~7/22。

ウランバートルから510km離れた場所。

医師3名、看護師1名(チケットの都合で7/24に帰国)、医学生1名、カメラマン1名(カテ班の日程調整などで7/28に帰国)。178名に心エコー。

カテーテル1班 10/6~10/14

医師9名(2名術後管理のため10/17に帰国)、看護師1名、技師1名、事務局員1名(術後管理やその後の調整のため10/25に帰国)。

115名に心エコー、35名にカテーテル(28名治療、7名診断)。

カテーテル2班 12/26~12/31。

医師 5 名、技師 1 名、医学生 1 名。
23 名に心エコー、12 名にカテーテル治療。

4. 学会発表講演等

学会発表

1) 中村琢、國澤良嗣、岡田大司、伊藤新平、和氣正樹、伊藤早希、安達和子、小谷暢啓、菅森峰、佐藤正岳、高橋伸幸、佐藤秀俊、吉富裕之、田邊一明、羽根田紀幸. 成人動脈管開存症に伴う肺高血圧症に対してコイル塞栓術が有効であった一例. 第 97 回日本循環器学会中国地方会. 松江市、くにびきメッセ

学術論文

- 1) 富田英、上村茂、羽根田紀幸、曾我恭司、松岡孝、澤田まどか、西岡貴弘、畠山欣也、高室基樹. 6 ヶ月以内の動脈管開存に対するコイル閉鎖術. 日本小児循環器学会雑誌 26:80-83, 2010
- 2) 羽根田紀幸. 心臓病管理区分と実際. 若年者心疾患対策協議会誌 38:29-38, 2010
- 3) 羽根田紀幸. モンゴル渡航小児循環器診療ハートセービングプロジェクト(HSP)10 年のあゆみ. 鳥取県小児科医会会報 33: 8-14, 2010

講演

- 1) 羽根田紀幸. モンゴル渡航小児循環器診療 10 年の歩み. 平成 22 年度鳥取県小児科医会総会学術講演会. H22. 4. 11. 米子市、米子コンベンションセンター 3 階第 3 会議室